

第6回CS会

1 会長挨拶 地域学校協働本部会長

協議委員二葉学園前園長急逝。卒園した子どもたちも集まっての学園葬だった。秋國校長が代表して参列。

2 報告・協議

(1) 報告

①学校の様子

ア 学校の不適切な対応からの困難な事案について解決の方向で進められた。

イ 健全ソフト、ブロック優勝。前年度に続き連覇。6年生だけではなく、5年、また初心者が頑張る姿あり。

ウ 病気休職中の教員が復帰訓練開始。

エ 4年保護者ボランティア、2学期終わりまで延長した。子どもたちが更に落ち着いてきている。保護者と協力関係にある望ましい学校体制で進められた。

[意見交換の内容]

・落ち着かない児童に対する指導について、教員がふだんの基準を下げて対応することの是非を問われ、本来あるべき基準で対応する必要性に教員が気付かされた。保護者としては学習に向く態度面を改善するので、学校には学習の質を高める指導をしてほしいと要望があった。

・保護者からは一部の不安定な児童以外の真面目に取り組もうとしている児童が安心して学べる環境整備を図りたいとの意向があった。

丨1月よりもだいぶ落ち着いてきている。子どもたちの意識が変わってきたように感じている。

・4年生はケヤッキールームに来室する児童も多い。「教室がうるさい。先生の大きな声がつらい」などの理由からである。その状況を考慮しても改善を図りたい。

オ 12月7日二葉葬。校長参列。

カ 地学協会長からの報告

4年生で出前授業「手話とガイドヘルプ」。デフリンピックの年ということもあり、児童は手話にとても興味をもっていた。楽しく学習できており、講師からも関心が高くうれしかったとの感想をいただいた。

デフリンピック観戦、外部の取材、今回の出前授業など様々なことがつながり、より深い学びになった。

②子どもの心と体を守るために学習について

・12月8日（月）学校運営協議会委員の方を講師に学年授業を行った。よい気付きがあり、結果として実施してよかったです。ペアリングをして、人との距離を体験した。

・心の距離感に関する事案が毎日起こっている。いじめ、いじりも心の距離感に含まれる。

「人と自分が違う」という意識付け。距離感、考え方などの違いを学ぶことは社会に出ていくときには大切と捉える。今回だけに限らず、継続して毎年行っていくとよい。全学年で指導案を作成したが、今の学年に限らず、遡った下の学年の学習もしたいとの声が教員からあがっている。

・全学年で取り組んでいる。現在、指導中。1年生では「よいタッチ 悪いタッチ」という指導を行っている。忘れてしまうので、定期的な繰り返しが必要と考える。

③本校の教育に関するアンケート結果について

- ・12月12日までの3週間で実施。CS会で文言を検討し、フォームと紙での提出にして、回答しやすい環境を整えた。
- ・全12項目で肯定的な意見の割合が多かった。気になるのは2番の「人を大切にする気持ちがある」という項目で保護者と教員の考え方に乖離があり、来年度に向けて教員と共に改善策を考えたい。
- ・自由意見としては、学校の頑張りを認めてくれている意見が多くある。しかし、「タブレットの使い方」「子どもに必要な社会性（読み書きに限らない）」ということも改善点として挙げられた。教科担任制も3年目を迎えており、成果が出ているという意見がある一方、本当に大丈夫かと不安視する意見もある。1月8日の校内研究で対話の必要性や大切さについて教員で話し合う。
- ・ケヤッキールーム、レインボールームについての子どもの認識は高い。通級ということも素直に受け入れている。子どもの会話の中に自然と出てくる。教員に対しての設問にはその場の支援員やSSW、SCとコミュニケーションが図られているかという内容も含まれているので、数値が低く出ている。

次年度 CS委員にはメールでアンケートを配布

地域には学校だよりと同じ封筒に紙のアンケートを入れるとともに、フォームでも回答できるようにする等、再検討する必要がある。

④今後のPTAのあり方について

- ・PTA会費を引き落としから振り込みに変更した。想像以上に保護者の協力があったことから、肯定的にとらえている様子が見られる。学校としても子どものために必要な取組があり、いつも同じ人に頼っている実情がある。この点を改善したい。
- ・会費に関しては調布中方式をとった。紙が手元にあると意識してくれる。今後、どんな形ならば参加しやすいのかというご意見を伺うためにもアンケートを実施予定である。
- ・学校アンケートにも改善点として「もう少し自分事として捉えてもらえるようにする」というご意見もあり。今後の運営の参考にするためにもということで意見をもらう。「1家庭1ボランティア」ということも聞いてよいのではないか。どんな方法ならば活動しやすいのかという意見も欲しい。「1人1役」となると威圧感もある。「できる時にできる人がやってくれる」という形もあり。PTAという名前を変えてもよいのではないか。アンケートで聞いてみるのもよいのではと考える。

- ・ボランティアに参加してもらえる人を増やしたい。また、役員になってもらえたうれしい。以前のおやじの会的な学校サポートーズも復活させたい。

サポートーズが縮小したこれまでの経緯としては、保護者の活動がないのに、サポートーだけが頑張っている。本当は保護者が頑張っているところを地域がサポートする形を地域は望んでいる。サポートーズをつくり、地域にお願いする。「やってください」だけでは今は難しい。

やることを見る化する。多摩川探検、調理実習、まちたんけんなど、協力してくれる。

- ・子どもを育てる上で学校だけではできないことが必ずある。PTCとしてコミュニティー（地域）にも入ってほしい。PTA的な組織が必要と思っている人がボランティアとして参加してくださっている。
- ・PTAといつても昔のPTAとは違う。この違いをアピールする。子どもたちのPTA。「1人1役」ではなく、「1人1ボランティア」としてはどうか。人を管理するということも現在の人数では難しい。ラインワークスを使うのであれば、運用を変えていく必要がある。誰もができる形にプログラムを変更していくことも考えたい。
- ・話し合いで保護者も学校も困らない形にしていく。無理にさせるのはボランティアではない。自発的に参加してもらえる形にしていく。また、楽しいことができるというPTAにしていきたい。やったらこんなに楽しい！という夢のあるものにしたい。
- ・今困っているのは「やらなくてはいけないこと」に人が集まらない。これをやった上での楽しいこと。コミュニティスクールという体制も理解してもらい、以前とは組織が変わっており再編を考える。アンケートを基に保護者の総意という形で地域には協力を求める。
- ・ボランティアを求めるためのラインワークスの運用変更は必須。ルールづくりもする。
- ・コアなメンバーが数名で行う。IT担当者の募集も呼びかけてみる。
- ・最後は学校からの募集の声があるとメッセージ性が高まる。
- ・「すぐーる」の方がよりメッセージ性が高まる。ラインワークスと「すぐーる」の併用が効果的である。
- ・確実に読んでもらいたいものは紙で配布した方がよい。教育委員会で「すぐーる」が頻繁に使われているために、「すぐーる」の関心度が低くなっている。

(2) 協議 「ケヤッキーとのたき火のつどい」

日時：2月14日午後（2時～3時）

- ・子どもの参加がないと保護者としては参加が難しいという声がある。しかし、校庭に来て散らばってしまう、遊んでしまうということが考えられる。管理はどうする。
- ・水遊びは子どものイベント。たき火は大人のイベントと考えている。大人同士の横のつながりをつくりたい。
- ・「子どもが参加できないならば行けない」という保護者のために、子どもも一緒にという形にする。課題は、子どもたちがこの時間帯にどう過ごすのか。スポーツ鬼ごっこはどうか。
- ・先生と気軽に話せる会ということを目的にして発信する。
- ・告知も子どもではなく、保護者、教員、地域にする。
- ・2月15日に健全ソフトの試合がある。現在、練習予定はないので、たき火の実施で計画する。
- ・前回のだんらんは「通級」というテーマがあったので人が集まったのではないか。

何かテーマがあった方がよいか。

- ・本来の目的は「三小に関わっている人に会う」ことである。三小に関わっている人すべてに声をかける。
- ・スポーツ鬼ごっこは告知せず、子どもの参加状況で実施の可否は判断する。

次回の1月14日までに実施方法を考えてくる。